

(教育基本法との対照表)

[illegible]

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
A 編 第 1 章 青年期の自立と家族・家庭 ①自立への一歩を踏み出そう ②家族・家庭って何？ ③将来の自分と家庭を想像しよう	・18歳で成人を迎えることを踏まえ、C 編 第 1 章と連携しながら、「自立したおとなになるとはどういうことか」を考えられるようにしました。また、家族の形や役割を考えさせる内容や、法律上の規定、困り事を相談できる機関などについて掲載し、生徒が将来充実した家庭生活を送るための基本的な知識を得るとともに、家族やパートナーとともに生きることの意義が理解できるようにしています（第 1 号）。 ・日本の雇用環境や、男女共同参画に向けた日本の取り組み、ワーク・ライフ・バランスなどについて、基礎をしっかりと扱い、青年期に考えるべき職業観を養うための工夫をしています（第 2 号、第 3 号）。	13－21 頁 27 頁 14－15 頁 24－26 頁
A 編 第 2 章 子どもの生活と保育 ①子どもはどう生まれ育つ？ ②子どもの生活にどうかかわる？ ③子育て社会の課題とは？	・新しく生まれる生命を身近に感じ、新生児の小ささを実感することができるように、等身大の赤ちゃんの写真や、ひとりの子どもの成長を追った月齢・年齢別の写真などを掲載しました（第 4 号）。 ・年中行事や伝統文化について扱い、子どもの健やかな発達における児童文化財の重要性を理解できるようにしました（第 5 号）。 ・抱っこや授乳、おむつ替えなど、将来子育てをする際に実践できる乳児の世話の仕方のほか、幼児とのかかわり方などを写真つきで詳しく解説しています（第 1 号）。 ・これから子育てにかかわる世代になっていく生徒が、少子化や育児不安、仕事と子育てなど、保育に関するさまざまな問題について自分のこととして考えられるように、表現に留意しています（第 3 号）。 ・日本や世界の子どもたちを取り巻く現状について考えることができる資料を掲載しました（第 5 号）。	折込 1－4 32－33 頁 36－37 頁 42－45 頁 46－47 頁 50－53 頁 48－49 頁
A 編 第 3 章 高齢期の生活と福祉 ①高齢期ってどういう時期？ ②高齢者とかかわってみよう ③高齢化する日本を生きる	・今の生活が、年をとってからの健康の基礎になることを意識できるように、正しい知識を身につけ、健康のためにできることを考えられるように工夫しました（第 1 号）。 ・現在の日本が直面している、超高齢社会についての正しい知識を身につけ、これからの福祉を維持していくために、主体的に社会の形成に参画することが大切であると意識できるように構成しています（第 3 号）。	56－61 頁 62－69 頁
A 編 第 4 章 共生社会と福祉 ①共生って何だろう？ ②ともに支え合う社会とは	・社会にはさまざまな立場や考え方の人がいることに気づき、私たちの生活が支え合いによって成り立っていることが理解できるように工夫しています（第 3 号）。 ・社会保障の制度を支えているのは勤労世代であることを意識し、職業の大切さに気づくことができるように構成しています（第 2 号）。	73、78－79 頁 など 75－77 頁

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
B編 第1章 食生活と健康 ①なぜごはんを食べるのだろう？ ②私たちは何を食べている？ ③食品を選ぼう ④今と未来の体をつくろう ⑤持続可能な食生活を目指そう	・食事の機能や、ライフステージごとに必要な栄養の特徴を詳しく解説しています。生活習慣病などを扱い、日々の食生活と、健康の関係について考えることができるように構成を工夫しています（第1号）。 ・調理実習において、主食であるごはんやお茶の淹れ方などをふり返り、改めて日本の食文化を認識できるように構成しています（第5号）。 ・ユネスコ無形文化遺産に登録された和食を中心に、郷土料理や行事食などを扱いました。生命を尊び、食卓に四季を取り入れてきた日本の優れた食文化を再認識することができます（第4号、第5号）。 ・世界の食文化を扱うことで、国際理解を深められるようにしています（第5号）。	84－89 頁 118－131 頁 など 136－138 頁 139 頁
B編 第2章 衣生活と健康 ①衣服の役割ってなんだろう？ ②衣服はどうやってつくられている？ ③自分で衣服をつくってみよう ④衣服の計画・管理を知ろう ⑤今後の衣生活を考えよう	・日本の伝統的な衣服である和服について扱うことで、私たちの生活に根づいている日本の心を感じることができるように工夫しました（第5号）。 ・日々の健やかな生活のために必要な、衣服の入手、洗濯、手入れ、着用のしかた、廃棄に至るまでの基礎知識を、丁寧に解説しました（第2号）。	144－146 頁 151 頁 158－164 頁 166－173 頁
B編 第3章 住生活と住環境 ①私たちの暮らす住まいとは？ ②快適・安全に住もう ③持続可能な住まいのために	・防災についての知識や事故への備えなどについて具体的に扱い、健康・安全に暮らすための知識を身につけられるようにしました（第1号）。 ・自然を取り入れた古民家などの例と、これから先の未来の住まい方を両方扱い、持続可能な発展について考えることができるように工夫しました（第4号、第5号）。 ・まちづくりに参加する高校生の例を挙げることで、社会の一員としての自覚を持ち、積極的に地域にかかわる意識の基礎をつくれるようにしました（第3号）。 ・気候や文化の影響を受けて発展してきた世界の住居を扱うことで国際理解を深められるようにしました（第5号）。	189－190 頁 192－193 頁 194 頁 196－198 頁 195 頁など 199 頁など
C編 第1章 消費生活と経済計画 ①何をどうやって買う？ ②消費者問題と消費者を守るしくみとは ③消費者の権利と責任を考えよう ④社会経済につながる家計とは？ ⑤将来の経済計画を考えよう	・情報の扱い方、意思決定の方法、キャッシュレス決済、クレジットカードのしくみなど、情報化時代で自立するために必要な内容を多く取り扱いました（第2号）。 ・自らの消費行動が持続可能な社会につながっていることを知り、主体的に社会の形成にかかわることの重要性が意識できるようにしました（第3号）。 ・経済と家計の関係を扱い、社会の一員としての自覚が持てる内容を重視しました（第2号）。 ・家計の管理や経済計画の重要性を取り上げ、職業、生活との関係、自律性をもって将来を考えられるようにしました（第2号）。	204－211 頁 218－219 頁 220－221 頁 222－229 頁

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
C 編 第 2 章 持続可能なライフスタイルと環境 ①未来の地球環境は大丈夫？ ②持続可能な消費行動とは	・持続可能な社会の重要性を実感できるよう、現在問題となっているさまざまな環境問題と、そのための法制度について扱っています（第 4 号）。 ・私たちの生活と環境のかかわりを理解するため、エシカル消費や持続可能な消費のあり方についてわかりやすく解説しています（第 3 号）。	232 － 235 頁 236 － 237 頁
生涯の生活設計 2 ① Well-being を実現しよう！	・高校生が「生活設計 1」で考えた自分のライフプランを、これまでの家庭科学習を踏まえて見直し、より具体的な生活設計を立てるための資料を掲載し、自分の人生について主体的に考えられるようにしました。（第 2 号）。	246 － 247 頁
My Career（キャリアインタビュー）	・職業や年齢の異なる人の生き方の例をインタビューとして示し、高校生が将来の働き方や家庭生活を想像する際に、人それぞれに多様な価値観があり、多様な生き方を尊重することが大切であると気づくことができるようにしました（第 3 号）。	81 頁 201 頁 241 頁
ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 ・ホームプロジェクトの実践例 ・学校家庭クラブ活動の実践例	・自分の家庭生活を見直し、見つかった課題の解決に向けて、計画、実践、評価する方法と、その実践例を紹介しています。ホームプロジェクトの経験を、学校や地域の課題解決に生かすことで、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことにつながるようにしました（第 3 号）。	口絵 8 248 － 253 頁
食品成分表 食品成分表の見方		254 － 261 頁
暮らしの中のマーク・ラベル ライフステージと法律	・これからの人生に必要な知識と教養を身につけられるように、生活情報や法制度を取り上げました。生活の中で必要な知識を身につけ、道徳心を養うことにつながる情報を掲載しました（第 1 号）。	口絵 12 口絵 13 － 14

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

誰にでも読みやすく、親しみやすい教科書を目指し、ユニバーサルデザインフォントと、ユニバーサルデザインカラーを使用しました。図表なども、色弱の方にも見えやすいように配慮し、隣り合う色同士の並びを工夫しました。

図表や写真をの内容をよりわかりやすく伝えるために、本文脇の側注スペースを広めに取り、見やすく配置し、豊富な資料を掲載することで、深い学びにつながるように配慮しました。

教科書の使い方を示し、明確でわかりやすい内容にしたことで、どのような先生・生徒でも取り扱いやすくなりました。